

# れんさい 監査の四季

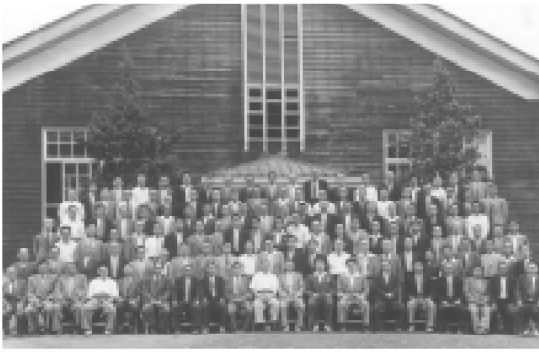
最終回  
鯖江市代表監査委員  
川中清司

## 難産だった鯖江市の誕生

50年前、鯖江市は合併賛成と反対の両派激突の中で生まれました。

昭和29年の秋、鯖江、神明の2町と中河、片上、豊、吉川、立待の5村の議会は合併を議決し、県もその申請を認めました。

ところが情勢は一転。合併反対の世論が高まり、住民が、むしろ旗を立てて県庁に押し掛けました。反対の理由は、合併の際に町村がウラの借金を作り、それを新市に持ち込むのは許せないというものでした。



昭和30年合併当時の市議会。鯖江中学校の講堂で議会を開いた。昼食はパン1個と牛乳1本。コッペパン議会といわれた。

市庁舎の位置でも激しく対立し、鯖江と神明が自分の区域を主張して譲らず、ついに町村長と議長が連名で福井地裁に「合併処分執行停止」の行政訴訟を起しました。合併申請の内容に偽りありという理由で。

1月14日、裁判所はこれを認めて「鯖江市設置の決定執行を停止せよ」との判決を下し、合併は法的にストップがかかりました。

あわてた福井県は自治庁に駆け込み、ときの総理大臣鳩山一郎が電送で異議を申し立てました。結局、裁判所は判決を取り消し、ようやく1月15日に合併を迎えました。

市役所の位置は、羽根盛一知事に一任して今の所に決まりました。足して二で割る妥協地点でした。

難産の子は丈夫に育つ。大きく成長した鯖江市は、いま再び合併の局面に立たされています。歳月移って歴史は繰り返す。

合併は時代の流れ。市民の総和意志で判断を。何よりも市民福祉を重点に置き、困難財政の打開が先決。冷静に智慧をしぼり、仲良く力を合わせることはないかと、合併当時の生き証人、市議会議員だった私は思うのですが。